

組合は「学びの場である」を再認識

令和六年元旦

理事長 北島 憲 高



新年あけましておめでとうございます。

令和という時代ももう六年目になり、平成年間と比べても大変革の時代なのではないかと感じる今日この頃です。世界的なコロナ禍もようやく落ち着き、昨年は国内外ともに旅行者も増え、場所によってはこれまで以上の訪問客数になった地域もあるようです。

コロナ禍では多くの経済活動が動きを鈍らせるなかで新しいもの作りや仕組みなどを考えていくきつ

けにもなりましたが、最近ふと「以前はどういう風に考えていたのかな?」「何を目標にやっていたのかな?」という事を振り返ることがあります。

もちろん物事には断捨離も必要なので要らないことをわざわざ掘り返す必要もないかと思いますが、本当は忘れてはいけない事もあると気づかされたり、あるいはそこからブラッシュアップされた何かがひらめいたりすることもあります。

これには去年の目標であったコミュニケーションを大事にして多くの人と直接会話するといったところから出てきたものも少なくありません。近年SDGsやDX化という言葉がキーワードとして頻繁に出てきますが、良い意味での無駄な知識やアナログ回帰も改め

て大事なと感じた次第です。

さて昨年より組合活動も活発になってくると、改めて組合は学びの場であると感じました。にぎやかで楽しい懇親の場ももちろん大切だし大好きですが、新たなものを生み出す機会、あるいは忘れていたものを取り戻す機会を得るためにも、二〇二四年令和六年は学びの一年としていきたいと思えます。

さてこの一年の目標を定めた中、早速三月二日(土)にはコロナ禍でしばらく開催できなかったミニ機材展を「ラベルフェスタ TOKYO 2024」と名称も心機一転、関東三協組合同開催で行います。会場も浜松町駅近くの東京都立産業貿易センターに移し、会社経営者だけで

なく従業員も一緒に学べる場として協賛会の皆様と一緒に盛り上げて参ります。日本全国より多くの方のご来場をお待ちしております!

昨年末の合同支部会には組合の会合に加入以来初めて参加した組合員さんもいました。なかなか敷居が高くて参加できなかったという事でしたが、我々執行部にも大きな責任があったと反省しています。

今年はどうした組合員さんの掘り起こしを最優先に支部会や研修会を開催し、一人でも多くの組合員さんが参加できるように、支部長にも協力を戴き、組合の活性化にさらに努めてまいります。今年もどうかよろしくお願いたします。



専務理事 本間敏道



明けましておめでとうござ
います。

今年二〇二四年は「甲辰
(きのえ・たつ)」で、「辰」
は十二支の中では唯一の架
空の生き物、龍(竜)を意
味します。水や海の神とし
て祀られてきた龍は、竜巻
や雷などの自然現象を起こ
す大自然の躍動を象徴する
ものであり、「龍が現れると
めでたいことが起こる」と
伝えられてきました。「成功
という芽が成長していき、
姿を整えていく」といった
縁起のよさを表している
いえそうです。

しかしながら元旦より
マグニチュード七・六の巨
大地震大津波が能登半島を
襲い、大きな被害をもたら
し、二日には羽田空港で日

本航空機と海上保安庁の飛
行機が衝突炎上という誰も
が予想しなかった二〇二四
年の幕開けとなりました。

十三年前の東日本大震
災の復興もまだ道半ばとい
う中での今回の能登半島地
震は、コロナによる景気の
低迷から脱したというには
ほど遠い中、今後にも多くの
不安材料を生むこととなり
ました。

多くの組合員は未だに
厳しい状況に置かれたまま
で、原材料の高騰や電気、
ガス、燃料等々の度重なる
価格高騰で必死にあえいで
いるというのが現実です。
しかし嘆いてばかりいて
も何も解決しません。この
危機にどう立ち向かってい
くのか、いまこそ小規模・
零細企業の強みを逆手にと
って、前に進むようではあり
ませんか。
「一社では出来ないことを
数の力で」という組合精神
を今こそ訴え、この危機を
組合員の皆さんと乗り切つ
ていこうではありませんか。
本年もよろしくお願いい
たします。

東京都中小企業団体
中央会会長 會津 健



明けましておめでとう
ございます。

令和六年の新春を迎え
るにあたり、皆様に謹んで
年頭のご挨拶を申し上げます。
す。

昨年のわが国は、新型コ
ロナウイルス感染症が五類
に引き下げられ、社会は正
常化に向けて動き出しまし
たが、緊迫化する国際情勢
による地政学的リスクの高
まりや、世界的なインフレ
により長期化している円安
など、先行きの不透明感が
続きました。

また、依然として続く、
エネルギーや原材料価格の
高騰による物価高に加え、
人手不足が深刻な中小企
業・小規模事業者は、業績
の改善がみられない中で

「防衛的な賃上げ」を行う
など、難しい舵取りを迫ら
れる状況のまま新年を迎え
ました。

このような状況の下で
本会は、円安進行等に伴う
仕入れ価格高騰等対策とし
て、経営課題解決のための
専門家派遣事業や組合等が
行う業界の活性化に向けた
新たな市場開拓や生産性向
上などの取り組みに対して
支援しました。

さらに、デジタル技術等
を活用した新たな手法によ
り、さらなる業界活性化を
目指す取り組みに対する特
別支援「デジタル技術活用
による業界活性化プロジェ
クト」のほか、技術・サー
ビスの高度化・高付加価値
化に取り組む中小企業・小
規模事業者を支援する「明
日にチャレンジ中小企業基
盤強化事業」などを実施し
ました。

加えて、昨年十一月には、
七回目となる「組合まつり
in TOKYO」を開催し
ました。今回も前回に引き
続き、リアル展示会をメイ
ンに据え、都内九一組合・
団体、全国三二組合・団体

の計一二三の組合・団体が
出展し、一万人を超える来
場者が訪れ、盛会裡に終え
ることができました。

さて、岸田内閣は、「新
しい資本主義」を主要政策
の一つとしており、その中
で、三〇年ぶりに高水準と
なった昨年の賃上げを持続
的なものとするために「構
造的賃上げの実現」を掲げ
ています。エネルギーコス
トや原材料費の価格転嫁の
みならず、十分な賃上げ原
資を確保するためには、サ
プライチェーン全体で取引
の適正化への取り組みを行
うことが不可欠です。

本会としても価格転嫁
対策や生産性向上などへの
支援の実施に努めるとも
に、東京都や国に対して中
小企業施策の充実のための
要望を行うなど、皆様のお
役に立てるよう全力で取り
組んでまいります。

結びに、本年が皆様にと
りまして、明るい希望に満
ちた年となることを心から
お祈り申し上げます。年
頭のご挨拶といたします。

協賛会長 服部 真 環境ニーズやリスクに対 して 今こそ業界全体が 総力を結集する時



明けましておめでとう
ございます。旧年中は協賛
会各社に対し格別のお引き
立てを賜り厚く御礼申し上
げます。本年も引き続きご
愛顧のほど、よろしくお願
いいたします。

さて、昨年は新型コロナ
ウイルス感染症の〇類移行
に伴い、経済の回復が期待
されましたが、食品や生活
必需品などの値上げによる
消費者の買い控え、外出機
会の復活やインバウンド消
費の拡大がモノ(商品)から
コト(サービス)へと変化し
てきていることなどから、
シール・ラベル業界を取り
巻く状況は決して期待どお

りに改善されたとは言えな
い一年だったという印象で
す。

また、世界情勢の影響に
よる原材料価格の高騰、あ
るいは物流費の上昇が続く
一方で、ラベルをはじめと
する容器・パッケージに対
するコスト意識は非常に厳
しく、事業環境としても依
然厳しいものとなりました。

国内企業各社の業績は、
引き続き欧米市場や中国・
東南アジア市場の動向にも
左右されるものと思われま
すが、着実に回復の方向に
向かっていくと考えられま
す。

しかし、今年は物流の二
〇二四年問題が顕在化する
年とも言われます。問題解
決のために計画生産や物流
の効率化・省エネ化が一層
求められてきます。また環
境配慮製品へのニーズもま
すます高まり、これまで以
上に「脱炭素」「循環」「リ
サイクル」を意識した製品
提案の重要性が増してくる
でしょう。こうした市場ニ
ーズの変化にもしつかりと
対応していかなければなり
ません。

厳しい事業環境下にあ
っても、必ず新たなビジネ
スチャンスを見出すことは
できると考えています。最
新のデジタル技術を活用し
た業務の効率化や生産性の
向上、新規事業の開拓とい
ったことも含め、私たち協
賛会各社も最大限、ラベル
業界全体の発展に寄与して
いく考えです。

二〇二四年は干支で言
うと「甲辰」の年。成功の
芽が成長していき、姿を整
えていく年と言われていま
す。これまで積み重ねてき
た努力をいち早くカタチに
していけるよう、共に邁進
していきましょう。

最後に各社様の今後の
ご発展と皆様のご健勝を祈
念いたしまして、新年のご
挨拶とさせていただきます。



今年一年の締めくくりを

阿部工機を迎えて合同支部会

組合恒例の忘年会を兼ねた合同支部会は、十二月八日(金)午後六時より、台東区上野の「梅の花・上野広小路店」において開催されました。

初めに北島理事長が「一年ぶりの合同支部会ですが、こうやって顔を合わせることは大事なことで、お互いにコミュニケーションを図るいい機会でもあります。今日は初めて組合の会合に参加する組合員さんもお



大いに盛り上がった合同支部会

ますので大いに懇親を深めていただきたいと思います。」と挨拶しました。

今回は先に協賛会に加入した阿部工機さんをゲストに迎え、冒頭同社の会社概要や事業内容について説明があり、平圧機や半輪転機の紙送りドラムをエアクラッチ式からサーボモータに改造することや、印刷機のメンテナンスや修理なども行っているので、気軽に相談して頂きたいとPRしました。

今回西支部のオリエンタルさんが組合の会合に初めて参加し「これまで何度か出席しようと思ったこともありましたが、知っている方が誰もいなかったので、



説明する阿部工機

今回本間専務理事に何回も勧誘され初めて出席いたしました」と語っていました。この後恒例の福引大会も行われ、景品が当たったことに歓声が上がりました。午後八時過ぎに平山理事の三本締めでお開きとなりました。

ラベルコンテスト作品集

発売を開始、全作品網羅

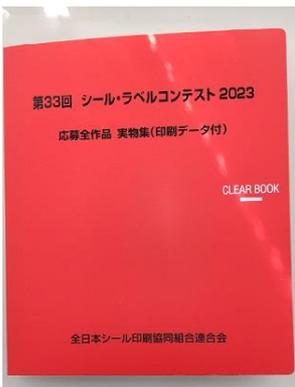
全日本シール印刷協同組合連合会では、「第三十三回シールラベルコンテスト応募全作品集」(A4クリアファイルに応募全作品の实物を貼付・印刷データシート付)が完成し頒布を開始致しました。

本作品集は、今年のシールラベルコンテストに応募された全作品を網羅して、作品製作に際しての使用の印刷機械メーカー・使用インキ・使用原紙材料銘柄などの他、作品の用途・機能・製作秘話などが記載されています。この他コンテストの総評・所感を掲載しています。(山下圭三技術委員談)

各作品の応募データ(使用印刷機メーカー・機種、インキ銘柄、使用原紙メーカー、製版、刷版、使用抜き型、作品の用途・機能、応募作品の優れている点・苦勞した点等)が記載されており、協賛会員様やシール・ラベルの印刷・デザイナーに携わる方にとりまして貴重な資料、ビジネスのヒントになるものと見られています。

価格は一部二万四千五百円(税・送料込み)ご購入ご希望の方は、別紙申込書にてお申し込み下さい。

また、バックナンバーの作品集も在庫がある分は別途特別価格にて頒布致します。こちらをご購入ご希望の方は、在庫確認のため全日本シール印刷協同組合連合会(TEL03-5830-6788)へお問い合わせ下さい。



第一二一回ラベル会・佐倉カントリー倶楽部
妻島洋一氏(マルウ接着)が二連覇達成!

第一二一回ラベル会は、十一月三日(木)に「佐倉カントリー倶楽部」に於いて、十八ホール、ストロークプレイ、三組九名で開催され、マルウ接着の妻島洋一氏が並みいる強豪を抑えて優勝し、前回の第一二一回ラベル会に続いて二連覇を果たしました。

【妻島洋一氏談】

二位には今年何と八十一年の最年長、組合参与・清宮和夫氏が見事に準優勝、三位には実力ナンバーワンのサンワークエンの高橋範幸氏が入りました。

当日は朝から快晴、無風状態で絶好のゴルフ日和、スタートから三ホール目からは暑くて上着を脱いでプレーする人も多く、和気あいあいのラベル会らしいゴルフでしたが、今回は参加者が少なかったのと、フェア

アウエーの芝がほとんど砂で、ボールが転がるたびに砂煙を上げていくというのが残念でした。
今回は全員が電車で来

がコースレイアウトがなんとなく記憶に残っており、また過去に一度優勝させていたでいたのでいいイメージを持ってラウンドすることが出来ました。

スタートのティーショットでは少々左に引っかけたが二打目でうまくグリーンそばに運ぶことができて、アップロッチ、1パットのパーで上がったのが良かったのか、続くドラコンのかかったロングホールではティショットは珍しく真直ぐコン賞をゲットできました。その後も非常にいい調子でプレーが出来て、結果三度目の優勝をさせていただきました。

同伴いただいた昭和レジャー大沢常務、村田金箔天野さんとも楽しい会話をしながらリラククスしてラウンドさせて頂き、本当ありがとうございました。
ゴルフの後には忘年会も開催されて楽しい時間を過ごさせていただきました。
来年も様々な活動に参加さ

せていただき東京都ラベル印刷協同組合のお手伝いが出来ればと思います。(マルウ接着(株)妻島洋一)

■優勝・妻島洋一(44.42.86. HD12) ■二位・清宮和夫(52.50.102 HD21) ■三位(ベスグロ)・高橋範幸(43.42.85 HD4)



東洋インキ社長交代

東洋インキ(株)は一月一日付で、代表取締役社長に現・取締役技術本部長兼東洋インキSCホールディングス執行役員の安田秀樹氏が就任しました。

■大動脈解離とは

ここ最近芸能人や有名な人が大動脈解離でなくなるケースが目立っています。大動脈は内膜、中膜、外膜の3層に分かれています。中膜がなんらかの原因で裂けて、も

侯群、遺伝などのさまざまな要因が関係すると考えられています。大動脈解離の発症が多い年齢は男女とも七〇代とされていますが、四〇代や五〇代で発症するこ

とも稀ではありません。また、大動脈解離の発症は冬場に多く、夏場に少ない傾向があります。また、時間的には活動時間帯である日中が多く、特に六〜一二時に多いと報告されています。逆に深夜から早朝は少ないようです。

大動脈解離は、ほとんどの場合、何の前触れもなく、突然、胸や背中の激痛とともに起こります。また、起こったばかりの時は、血管が裂けているために血管の壁が薄くなり、きわめて破裂しやすい状態にあります。

特に上行大動脈に解離が及ぶA型では、一時間以上昇ると言われている死亡率が上昇すると言われています。つまり、四八時間以内におよそ半分の患者さんが亡くなることになりま

大動脈解離は血管の壁が薄くなって破裂するほか、大動脈自体や大動脈から枝分かれする重要な枝の血流が障害されて痛み以外に多彩な症状を呈することがあります。

例えば脳に血液を送る血管が解離で血流障害を起こした場合には、「脳卒中」による意識障害を疑われて脳神経科へ搬送されてから大動脈解離であることが分かることはよくあります。血流障害による手足の痛みで発症したり、急性心筋梗塞を疑われてカテーテル治療を開始してから分かることもあります。

突然、胸や背中に激痛が生じれば、大動脈解離も疑われますが、突然の激痛が及ぶA型では、一時間以上昇ると言われている死亡率が上昇すると言われていること、つまり、四八時間以内におよそ半分の患者さんが亡くなることになりま

■突然の胸や背中の痛みは要注意

突然、胸や背中に激痛が生じれば、大動脈解離も疑われますが、突然の激痛が及ぶA型では、一時間以上昇ると言われている死亡率が上昇すると言われていること、つまり、四八時間以内におよそ半分の患者さんが亡くなることになりま

見ても大丈夫と言える病気はありませんので、とにかく一刻も早く救急車を呼んで医療機関を受診し、治療を受ける必要があります。

診断が遅れないように、大動脈解離の可能性を疑うことが重要ですので、些細な症状であっても救急救命士や医師に伝えてください。また、ご本人から伝えるのが困難なときには、家族が知り得る情報を詳しく伝えてください。

大動脈解離を起こして直ぐの時期（急性期）は、救急疾患として取り扱われますが、急性期を脱して比較的安定した状態（慢性期）になると、解離した大動脈がもろく弱くなっているために、大動脈瘤に拡大していくことも珍しくありません。定期的に専門医を受診して経過をみてもらう必要があります。

No202 健康がいちばん!

70代が多い大動脈解離とは 発症は冬場の日中の時間帯が

ともとは大動脈の壁であった部分に血液が流れ込むことで大動脈内に二つの通り道ができる状態が大動脈解離です。

■大動脈解離の原因

動脈硬化、高血圧、喫煙、ストレス、高脂血症、糖尿病、睡眠時無呼吸症

間が一%ずつ死亡率が上昇すると言われていること、つまり、四八時間以内におよそ半分の患者さんが亡くなることになりま

【参考資料】

<https://www.ncvc.go.jp/>